

第2回インフォメーション・ヘルスAWARD『アイデア部門』 応募用紙

○タイトル そのネタ本当にバズってますか？サイレントマジョリティを可視化する「スルーメーター」の開発

○応募グループ名 大阪大学人間科学部・社会心理学研究分野 実験実習受講生

○解決したい情報環境をめぐる課題

- 昨今、SNSを中心としたネット上において、フェイクニュースや誤情報が拡散し、社会の混乱を引き起こしています。
- SNSにおいては、真偽を問わず刺激的な内容を記した投稿がより多く拡散される傾向があるため、これらの投稿にはたくさんの「いいね」やコメントが付され、私たちの手元に届きます。
- その際私たちは、これらの投稿をどのように見ているでしょう？ たくさんのいいねやコメントがついているのを見ると、その投稿の真偽を確かめずに「世の中の人みんながこの投稿に注目している」と思い、無意識の内にフェイクニュースや誤情報を広げるのに手を貸していませんか？——多くの人は、投稿を見ても何も反応しなかったサイレントマジョリティ（無関心層）なのに。
- 日ごろ目にする無数のSNSの投稿について、どうすれば過剰に反応せず、冷静な判断ができるようになるのでしょうか。我々はこの問題への解決策として、サイレントマジョリティを可視化する「スルーメーター」を提案します。

○アイデアの具体的な内容（どんなもので、どんな人が、どう使うと、課題が解決できるのか）

- 人間の認知バイアスのひとつとして、「分母の無視」という現象が知られています([Pennycook & Rand, 2019](#); [Reyna & Brainerd, 2008](#))。私たちは普段、意思決定を行う際に、全体の規模（＝『分母』）を無視し、部分的な情報（＝『分子』）のみに基づいて判断してしまう傾向があるのです。
- 我々は、この「分母の無視」現象に着目しました。SNSにおいては、『分母』は投稿の閲覧者の総数、『分子』はいいね・コメント・リポストなどのリアクションをした人たちの数、といえるでしょう。これを「無視させない」工夫をしようという発想です。
- そこで、SNSのユーザーインターフェース（UI）上で、『分子』情報のみならず、『分母』情報や、他人の投稿をスルーした（いいね・コメント・リポストなどのリアクションをしなかった）人たちの割合（＝『分母』と『分子』の差分；サイレントマジョリティ）を可視化し、「多くの人がこの投稿をスルーしている」ということをユーザーに認識させることで、その投稿へのリアクションを減らせるのではないかと、という仮説を立てました。
- 仮説の検証のため、オンライン調査を行いました（QRコードから実際にご回答いただけます）。X（旧Twitter）のUIを模したフェイクニュース（補足資料①）の投稿画面をユーザーに提示する際に、①通常の表示条件に加えて、投稿をスルーした人の存在を強調した「スルーメーター」3条件（②説明文章<数値あり> / ③説明文章<数値なし・解釈のみ> / ④円グラフ）を準備し、投稿へのリアクションの有無を測定しました。⇒【参考図：いいね・コメント・リポストボタンをクリック/タップすることでオン/オフを切り替えられる】
- 18～85歳（平均47.10歳）のX（旧Twitter）利用者（調査モニタ）250名を対象とした調査の結果、①通常条件に比べ、④円グラフ条件においてリアクション（特に、いいね）が減少していました（補足資料②）。サイレントマジョリティの割合を可視化した「スルーメーター」のうち、直感的かつ視覚的にわかりやすい形で訴えかけるものに、フェイクニュースの拡散・リアクションの減少効果が期待できそうです。
- また、各投稿画面を見た際の「関心度」など心理的な側面も問いましたが、こちらには条件間に差はありませんでした（補足資料③）。つまり、気持ちは変えられないが、行動は変えたということです。どんな仕掛けであれ、人の心理をコントロールすることは困難ですが、今回の結果は、「同じ気持ちを抱いていたとしても、それが社会的に適切でないと思えば行動には出さない」可能性を示しています。もしそうだとすれば、それは「スルーメーター」として十分な性能ではないかと考えています。



【参考図】

XのUIを模擬した投稿画面（4条件）



○アイデアは未発表のものかどうか。すでに「試作」「試行」している場合は、新たに付け加えたいアイデア（ブラッシュアップするポイント）など

- 本アイデアは未発表のものです。今後ブラッシュアップするポイントとして、以下を検討しています。

1. 誹謗中傷をターゲットにした検討

- 本アイデアでは、フェイクニュース投稿に関する調査を実施しましたが、このほか、昨今社会問題となっているものとして、SNS 上の他者への誹謗中傷が挙げられます。私たちは、フェイクニュース調査と平行して、「自分自身への誹謗中傷投稿に関する精神的なストレスの低減」についても同様の実験的な調査を実施しましたが（補足資料④）、「スルーメーター」による効果（受ける精神的ストレスの違い）は見られませんでした。他者からの誹謗中傷は、それがたった一人からのものであったとしても「スープの中のハエ」のように強いネガティブな影響を与えます。いくらサイレントマジョリティを強調したとしても、それを取り除くことは容易ではないでしょう。
- ただし、誹謗中傷もまた野放しにしてはならない問題です。「ハエ」を絶滅させることはできなくても、「ハエ」を寄りつかせないような清潔なネット環境づくりはできないか。そのために今回の気持ちは変えられないが行動は変えたという知見を生かせないかと考えています。

2. 本アイデアの実装に向けた取組

- 今回の調査では、円グラフの表示方法が最も効果的であるという結果が得られましたが、今後はより詳細な表示形式・仕様のブラッシュアップを行う必要があると考えています。SNS プラットフォーマー側でも様々な工夫が実装されつつあり、X（旧 Twitter）においては「コンテンツへのラベリング、誤解を招くツイートに反応を示す利用者へのメッセージの表示、虚偽情報の事前訂正」などの「[誤情報への対処方法](#)」が実施されています（2024年8月現在）。これらと本アイデアとを組み合わせた実装に興味を持っていただけるなら幸いです。

○アイデアを思いついたきっかけ

- 私たちのグループのなかで、以前 SNS に自分の写真を投稿し、実際に誹謗中傷を受けたメンバーがいました。SNS のコメント欄で、見ず知らずの他者から自分の容姿に関する誹謗中傷を受け、当初はひどく気に病んでいました。その際、友人から「ネットの意見なんて少数だよ」「そんなこと思っていない人が大多数だ」と言われ、気が楽になったといいます。そのエピソードを聞いて、「ネットや SNS との付き合い方として、よく「じっくり吟味し、熟考しよう」と言われるけれども、時によってはむしろ「どうでもいい」とスルーすることも大切ではないか」と考えたのが出発点となりました。そこから議論を重ね、フェイクニュースや誤情報にも対象を広げて提案したのが本アイデアです。